

■欧州：熱波で発電所の減負荷や運用停止が発生

2018年7月27日付の報道によると、熱波に見舞われた欧州各地で、発電所の運転に影響が出ている。原子力発電では、フランス EDF の St Alban1 号機が冷却水の温度上昇を含む環境的要因により出力を 135 万 5,000kW から 105 万 kW へと下げて運転した。なお、発電所が立地する地域は、ローヌ川の流域で、熱波警報が発令されていた。同様にフィンランドの Fortum の Loviisa 発電所においても冷却水の温度上昇等の影響により、出力は 100 万 9,000kW から 86 万 4,000kW へと引き下げられた。また、石炭火力は冷却水温度上昇の他に、河川の水位が低下したことで石炭運搬へ支障が出た。具体的には、ドイツの発電所業者である Steag の Bergkamen A 発電所が、燃料不足等により出力を 71 万 5,000kW から 25 万 kW へ出力を下げて運転した他、RWE の Westfalen E 発電所では、オフピークでの減負荷や週末の停止運用を余儀なくされた。今後の欧州における気温については、8月上旬で低下するとの予報もあるが、一方で、8月末までは気温が高い状態が継続し、8月上旬の欧州の中央～北部地域においては、例年より 3～6℃気温が高くなるとの予報もあり、予断を許さない状況が続いている。